



前頭洞、鼻中隔、篩骨洞、上顎洞などを温める
ネル温灸。口煙よけも工夫されている

パペットを使ってローラー鍼を
見せる久保氏



桑原氏は赤ちゃんをあやしながら、巧みに小児はりを行った

日本小児はり学会 第5回 学術集会in大阪

日本小児はり学会の第5回学術集会が9月23日、森ノ宮医療学園専門学校で開催された。午前と午後の部に分かれて行われ、282人の参加者が集まった。

午前の部では公開講座「北米の小児はり治療」（ニューイングランド鍼灸大学院大学准教授・桑原浩榮氏）が行われ、アメリカでの鍼灸の広がり方を踏まえたうえで、自身の治療室における臨床統計をスライドで発表。続いて、故・森秀太郎氏（森ノ宮医療学園名誉理事長）の貴重な小児はり実技講演映像が流され、会場の耳目を集めた。

午後の部は、公開講座を行った桑原氏に続いて、久保晴美氏（久保鍼灸院）が「ネル温灸」や「アヒル口煙よけ」などアイデア溢れる実技を披露。その後は、各教室に分かれて、トーマス・ベルニッケ氏（国際日本伝統医学協会会長）、谷岡賢徳氏（大師はり灸療院）、清水尚道氏（清水鍼灸院）、鈴木信氏（米山鍼灸院）、玉田宗久氏（玉田鍼灸院）、恵美公二郎氏（日本小児はり学会会長・めぐみ鍼灸院）による多種多様な小児はりテクニックが披露されるなど、「小児はり大集合」のテーマにふさわしい実技セッションとなった。最後は計5題の一般公演で締めくくられた。

また午後の部の前にトーマス氏とフランク・ビュットゲン氏（国際日本伝統医学協会副会長）から、鍼灸ボランティア活動の窓口となって被災者支援を行っている樋口秀吉氏（被災者支援プロジェクトチーム東洋医療代表世話人・宮城県鍼灸師会会長）へ、東日本大震災の義援金が贈呈される一幕もあった。両氏はドイツで小児鍼を学ぶ仲間や、銀行やテレビ局など企業に呼びかけて、義援金を募っていた。



義援金の贈呈式



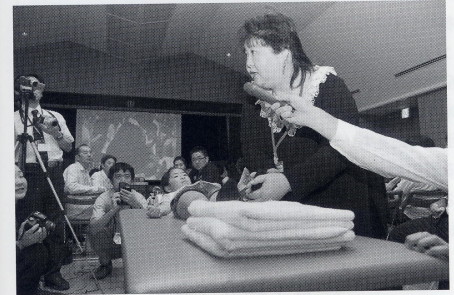
玉田氏が所有する「もぐらの爪」。摩擦鍼と同様の使い方をする

■第5回日本小児はり学会学術集会 in 大阪開催

9月23日（金・祝）、森ノ宮医療学園専門学校において、日本小児はり学会学術集会が開催された。

5回目となる今回は、アメリカ・ボストンにあるニューイングランド鍼灸大学院で准教授を務める桑原浩榮氏が「北米（アメリカ）の小児はり治療」と題して講演した他、ドイツで医師として小児はりの普及に務めているトーマス・ベルニッケ氏が実技を披露するなど、各国で行われている鍼灸治療を垣間見られる学術集会となった。

また、その他にも谷岡賢徳氏による実技公開や一般口演などが行われ、会場は活況を呈した。



実技供覧を行う久保晴美氏。



鍼灸ジャーナル11月号より

← 医道の日本11月号より